

Smile Woman!
インタビュー⑧!この人の仕事のかたち
どこか輝いて見える「仕事」をしているあの人にズームアップバレエやコンテンポラリー
ダンスの魅力を伝えたい

IMAGING PHOTO STUDIO へあもん



kazuko Miyake

山陽本線・西川原駅の近くにある「バレエスクールカズコ」は、前身の岡山バレエスクールの時代から数えると50年以上の伝統があり、岡山でも屈指のバレエスクール。岡山市内の本部のほか、高梁、早島にも支部があり、子どもから大人まで、また初心者からプロ志望者までのレッスンを提供する。三宅和子さんはスクール主宰者として、クラシックバレエはもちろん、コンテンポラリー、ミュージカル、社交ダンス、フイギンなどの芸術指導も手がけている。



IMAGING PHOTO STUDIO へあもん

◎素晴らしい恩師に恵まれバレエに傾倒

三宅さんがバレエを始めたのは、小学二年生の頃。テレビドラマの影響で、レリーナに憧れを抱き、ほぼ同時に恩師である故・植松美子氏の教室が自宅の近所に来たことから、すぐに通い始めることに。「素晴らしい先生に出会ってバレエが大好きになり、すぐに踊りの世界に傾倒してしまいました」と三宅さん。特に小学生の頃は「病気で学校を休んでも、夕方にはレッスに通っていたほどです」と笑う。以来、バレエに携わって40年以上。「植松先生との出会いがなければ、こんなに長くは続けていませんでした」と目を細め、ふりかえる。

バレエスクール カズコ
主宰

三宅 和子さん

◆岡山市中区西川原3-4-5-4
086-273-0487

◎図らずも指導者としての道へ

中学からは自らのバレエの技術や表現を深めつつ、アシスタントとして後進の指導にも従事。ただし当時はあくまでダンサー志望で、指導者になる意識は皆無だったという。そんな三宅さんが、高校卒業の前後に恩師が病に倒れ、スクールの継承を請われる。「既に独立して教室を開いている門下の先輩方が大勢いるし、やる中でおがましいと思いますし、ダンサーを志す気持ちとの間で葛藤しました」と三宅さん。「当初の戸惑いや苦悩を乗り越え、『やろ』と指導者になれた」と実感できるまでに10年かかりました」と回顧する。

また三宅さんにとり、もう一つの転機となつたのが、教室を継承し20年目に開いた公演。国内外で活躍するコンテンポラリーダンサー・振付師の三浦宏之氏をゲストに招き、その出会いを通じてダンスに対する世界観がさらに拡がっていたという。

◎30周年、そして未来に向け

幾多の節目を経て、スクールは今年30周年を迎えた。この12月6日(日)には、植松氏の没後30年でもあわせた記念公演を岡山市民文化ホールで開催。植松氏門下の多くのスクールも協力出演し、また注目のコンテンポラリーダンサー、今津雅晴氏をゲストとして迎えるなど見所も多い。

さらに三宅さんは、初めてバレエに触れる大人のための教室や、お笑いコントポロリーダンスの融合を試みるダンスカンパニー「アレスシヨ」の公演など、活動の場を拡大中。「これからもその活躍が目が見えない」。